

第18回 ちゅうでん教育振興助成（平成30年度）

報告書資料 復興支援 - 28

学校名・団体名	熊本市立北部中学校
コース	学校支援
活動・研究のテーマ	教育課程研究指定校 人とつながる 社会とつながるESD
<p>〈活動・研究の意義および活動報告〉</p> <p>昨年度より、多様な学びを通して、子どもたちが自己肯定感を抱き、将来に夢をもって、学校生活を送れることを目指し、学校教育目標「花のある学校 文化のある学校 学び合いのある学校 これらが地域とともにある学校」を掲げ、2050年の人づくり・まちづくりをテーマに教育を実践している。環境教育や健康・福祉教育にも力を入れており、全国学校緑化コンクールでは、平成29年度、準特選2位を受賞している。高校や大学と連携した健康教育や福祉教育の活動も盛んになってきた。生徒も生徒会活動や行事等に積極的に取り組み、学ぶ意欲が高まり学校全体として活気がでてきた。生徒指導の困難校から脱却しつつも、不登校生徒の出現率も低下してきた。</p> <p>教師集団は指導力が高く次世代の教育のあり方について学ぶ意欲が高い。昨年度、研究の機運が高まり、「持続可能な社会の担い手」としての子どもたちの成長を願い、「社会に開かれた教育」のパイロット校になればと国の教育課程研究指定校「教育課程ESD研究」に申請。本年度より指定を受け研究実践を行うこととなった。</p> <p>1 具体的な研究活動</p> <p>①本校の実態に即し、ESDを軸とした学習課程，学習指導の工夫改善</p> <p>ア 生徒，保護者，地域にも分かる，学習課程の工夫 →総合的な学習の時間と各教科等のクロスカリキュラムをESDカレンダーによって可視化，整理するとともに「ESD学びの地図（キャリアマップ）」を作成する。</p> <p>イ 生徒の変容を見取る評価の工夫及び，指導改善 →学習フレームとしての「批判的思考」「創造的思考」「協働的思考」という視点を授業の中に組み込む。 →SDGsカードの作成と授業への活用</p> <p>ウ 関係機関と連携したESDに関する研修の実施及び教員養成 抜粋（別添 ppt 資料）</p> <p>5月・ESD導入授業，授業研究会＋講師講話（大牟田市教育委員会 荒木指導室長）</p> <p>6月・校区内保幼小中連携事業を兼ねてESD導入授業＋講話（文部科学省 濱野視学官）</p> <p>7月・アフリカ子どもの日 事前訪問・講話（マリー・ルイズ氏） ・夏季研究推進委員会（ESDカレンダー キャリアパスポート）</p> <p>8月・職員のESD研修（福岡教育大学 石丸教授） ・大牟田ユネスコスクール発表会への参加（職員7人） ・金沢大学附属中学校への研修 （視察校研究テーマ「持続可能な社会の形成者として必要な資質・能力の育成」 ～生徒の深い学びとカリキュラムの開発を通して～）（別添資料）</p> <p>・タブレット，電子黒板導入に於ける職員の研修（熊本大学 前田准教授）</p> <p>・中国重慶市より訪問，交流</p> <p>9月・職員のNIE研修（熊本日日新聞社 読者NIE担当者より） ・生徒向けのNIE学習会（熊本日日新聞社 読者NIE担当者より）</p> <p>10月・全校生徒に向けた後期生徒会委員会活動説明会の開催 ・寝屋川第十中学校 ESD研究発表会への職員4人参加（別添資料） ・民間教育研究機関のモニターとして評価への参加（1，2年生）</p>	

- 11月・シンポジウム「北部の未来を考える」の開催…シンポジスト
(熊本副市長 熊本市民生員理事 SDGs推進企業代表 生徒3人)
- ・職員授業研修 英語×ESD
- 12月・職員研修「第1回 ESDティーチャーズプログラム」(奈良教育大学 中澤准教授)
- 2月・くまもとSDGs・ESD研修(九州地方ESD活動支援センター)への協力
- ・職員研修「第2回 ESDティーチャーズプログラム」
社会、道徳、理科の授業→授業研究会+指導
(奈良教育大学 中澤准教授 + 福岡教育大学 石丸教授)
- ・ICT研修(文部科学省 ICT活用教育アドバイザー 平井聡一郎氏)

エ 生徒会活動の委員会活動と連動した取組

- 総合的な学習の時間に委員会活動を位置付ける。(生徒会委員会活動説明会の開催)
- それぞれの委員会がSDGsのゴールを見据え、活動を考え、実践に結び付ける。

オ NIEの活用による情報の収集、活用の仕方の研修及び校外へ向けた情報発信

- 全校生徒に向けた、新聞の読み方、活用の仕方の学習会を開催する。
- 各学年「NIEコーナー」を設置する。
- 朝自習の時間を利用した、新聞からの情報の取り出し方の学習を行う。

カ タブレット、電子黒板及び映像提示装置の活用 (ICT×教育)

- ドリルパークを活用した朝自習でのドリル学習を行う。
- 朝自習でタブレットを使って新聞を読む。

②学校を核とした地域全体でのESD浸透

ア ESDコーディネーターによる教育プログラムの作成、実施

- まちづくりセンターの協力による、ESDに関するシンポジウムを開催する。
- 生徒会の代表と、地域の民生委員、PTAとの意見交換会を実施する。

イ 校区内大学(崇城大学・保健科学大学)との連携

(今後、委員会活動を中心に、工業、環境、医療等の分野で、専門的な立場から授業に参加してもらい、総合的な学習の時間等の指導の充実を図る予定。)

ウ 熊本ユネスコ協会等の協力によるグローバルな視点の共有

- 「アフリカ子どもの日」の事前訪問、講演開催を行う。

エ 緑化委員会の地域活動による地域との交流

熊本地震からの復興も含めた、持続可能な地域の環境づくり

③妥当性、信頼性のある評価の工夫

- ・生徒の変容を見取るための学校独自のESDルーブリック評価の工夫
- ・検証改善サイクル(PDCA×3)の実施
- ・民間教育研究機関の調査のモニターとして評価の実施(1,2年生)
- ・全国学力学習状況調査等の経年比較・学校主体の評価(自己評価)
- ・学校関係者評価・教職員の能力評価及び業績評価などの活用

2 研究の成果と課題

(成果)

- ESDを軸とした教科横断的な発想で学習活動を計画することで、生徒・教師ともに、学習の目的や、教科等の関連性を確認し、ESDの意識を明確にした学習を行うことができた。
- 総合的な学習の時間の中に委員会活動を位置付け、生徒全員がSDGsに関連した活動を考え、実践に結び付けようとしたことで、生徒のESDに向けての意識が深まった。
- ESDに関連したシンポジウムや地域との交流会を開くことで、学校を核とし、校区内小学校、地域全体に向けたESDの浸透を進めることができた。
- ESDで育成する資質や能力育成の実現状況をはかるための、妥当性、信頼性のある評価と、評価を基にしたアプローチの準備を行うことができた。

(課題)

- 総合的な学習の時間に位置付けた委員会活動だが、それぞれの委員会が探究となる学習活動を構築していく難しさがある。
- 総合的な学習の時間としての委員会活動と、特別活動としての委員会活動がクロスしていることから、その教育課程の明確化、及び評価の検討が必要となる。
- 将来の生き方(キャリア教育)につながる、ESDの再検討を行う。